東洋大学図書館ニュース

KOΣMOΣ

Vol. 8, No. 1 (No.22) 1973. 7. 5

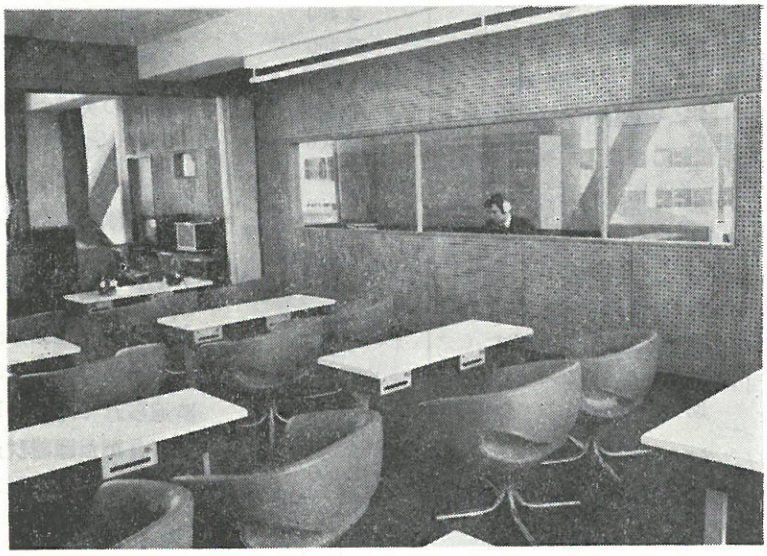
合同委員会審議要約 2
本学図書館史の一断面 4
新鸞生誕八百年に寄せて 5—6
夏期休暇中の図書館利用について 8
日　誌 8

おまたせしました
視聴覚室がオープン
—7月2日より—

視聴覚室の利用が長い間まち望まれていましたが，いよいよ7月2日から開室する運びとなりました。今日，テープ，レコード，フイルムなど図書以外の資料の増大は著しいものがあり，図書館がより総合的に本来の機能をはたすためには，視聴覚室は必要不可欠なものとなって来ております。本学図書館もそのような意味で新図書館が完工されるのを契機として視聴覚室の準備が進められ，開室の運びとなったものです。本学図書館が広義の図書館としての機能を果す上で視聴覚室の開室は画期的な出来事といえましょう。なお，開室に至るまでに長い間準備期間を要し，利用を心待ちにしていた方々に大変ご迷惑をおかけいたしました。又開室にこぎつけたものの，まだ当分の間は，資料の整備などの不充分な点が多々あります。利用者の皆さんのご意見や要望を参考にしながら，逐次改善を計っていきたいと考えております。どうぞ旺盛に利用し，ご意見をお聞かせ下さい。

開室時間　①図書館開館日の月曜日～金曜日。
　　②正午～午後1時及び午後2時～4時。

なお利用方法の詳細については「視聴覚室へのご案内」をご覧下さい。



合同委員会審議要約

去る４月24日，昭和48年度第１回の図書館運営委員及び図書選択委員による合同委員会が開催されました。議題は，①昭和48年度図書費，②教職員への貸し出し，③見計い図書の選定，の三件でした。

議事要約

1. 昭和48年度図書費5,300万円を暫定予算として承認する。（別表参照）

   ※「暫定」という理由は，大学全体の予算規模増額に見合っていず，文部省基準をも下まわること及び図書の単価が少なくとも昨年比で１割５分は上っているのに，その点が考慮されていないなどの点から追加予算の再交渉を行うという条件のもとに決定されたものです。なお工学部の図書費について工学部の委員から説明がありました。（別表参照）

2. 教職員の図書貸し出しは，従来の貸し出し冊数の増加の要望を検討した結果，現行の１人15冊から30冊に増加することを決定しました。

3. 「見計い図書」の件は，従来の選定方法を次のように改善する。

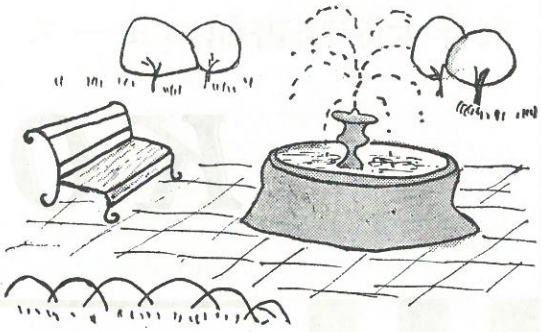
   あらかじめ５日間位の展示日を設定し三段階ランクに分けて選定する。委員会の会議は収書，選定にあたっての基本問題を話合う場とする。

昭和48年度図書予算

（単位　千円）

文学部	3,000
経済学部	2,400
法学部	2,400
社会学部	2,400
経営学部	2,400
教養課程	2,400
大学院	3,800
短期大学	2,000
各学部共通	2,200
図書館	13,500
逐次刊行物	7,000
視聴覚資料	500
予備費	2,000
助成金	7,000
計	53,000
工学部	12,000

ぷらざ　で　りぶろ



真理への激励　二冊の知的冒険記録

古代への情熱――発掘王シュリーマン自伝――（H・シュリーマン　佐藤牧夫訳　角川文庫）（村田数之亮訳　岩波文庫）　234.063：SH

線文字Bの解読（チャドウィック　大城功訳　みすず書房）　（発注中）

この２冊は，まこと人生激励の書である。わたしたちに深い，激しい生き甲斐を教えてくれる。しかも真理に向かって邁進する，タイプのちがう２人の知的英雄のすがたを活写してくれる。その１人は，古代ギリシアのホメーロス叙事詩に謳われてはいるが伝説と思われてきたトロイア戦争の旧跡を，もののみごとに掘りあてた，おそるべき執念と意志の男シュリーマン。もう１人は天才的推理力でエーゲ文明末期の線文字を暗号解読の要領で読み解いた若き建築家ヴェントリス。この２人のしごとは約80年の歳月をへだてているが，ともに古代史研究の局面を一変させた画期的業績だったのである。

外向的で冒険好きな若者はまずシュリーマンの自伝を読みたまえ――幼い日，父からホメーロス叙事詩の英雄たちの話をきいて育ったシュリーマンは，いつの日か，かならずトロイア遺跡を発掘しようと心に誓う。重なる不幸，迫りくる貧苦，悲しい離別。商店の小僧になってもかれの意志は微動もせぬ。やがて努力はかれに巨万の富をもたらすが，そのすべてをなげうって，ほとんど賭ともいうべき発掘に己れの人生を投入する。このシュリーマンの態度は感動をさそう。もう１つ必要に迫られてかれが10数ケ国語をマスターする，そのやりかたは，読むだけでも痛快だ。（学生諸君のストレス解消になる！）読者はページを追ううち

に，シュリーマンとともにホメーロスの詩句を聖書のように吟味しながら，ヒサルリークの丘に近づき，猛火に滅んだいにしえの都城を掘りあてる感動にみたされる。これは考古学調査報告でもなく，美術史文献でもない，まさに生きた人間の情念のことばである。しかも真理のために，世俗の欲望や才能を禁圧するのではなく，むしろ異常に激しく燃焼させてかえってそれを浄化させた，不思議な，崇高な魂の物語である。

ヴェントリスは謙虚な人柄だったらしい。シュリーマンとは正反対の性格のようだが，年少時から古代文字と言語に熱烈な興味を抱いていた点は似ている。かれは建築家の才能をもっていたが，余技にひとしい先史文字解読法の研究がかれの名を不滅のものにした。しかしかれは34才で交通事故に遭って死んだ。神に愛せられたがゆえに，夭折したのである。ヴェントリスの偉業は簡単に要約できない。しかし粘土板に残された「線文字B」が表音文字でもなく，表意文字でもなく，音節文字であることから，音節配列格子を表にしてまとめ，その仮説にもとづいて推理と検証がかさねられたのである。1952年ヴェントリスが達した結論は，線文字Bはギリシア語を表記しているということであった。このことは先史ギリシアエーゲ文明の理解に1つの新しい光を投げかけることになった。われわれはヴェントリスのしごとを追うことによって，きわめて高度の知的推理の，奥深い快楽を感じ，身のうちに真理に対する愛がうずきはじめるのをおしとどめることができない。

（文学部教授　木幡順三）

山本　茂美著

ああ野麦峠——ある製糸工女哀史

（朝日新聞社　1968年）366.35：YS

読書は私にとって苦痛だ。多くの人々は趣味を聞かれて読書と答えるが，私はただ仕方なしに本を読むばかりで，読書の楽しさを知らない。むつかしい術語がやたらに多い本，外来語ばかり出てくるもの，日本語で書かれていない書物などは，とくに読みたくない。商売上，本から遠ざかることはできないけれども，なるべく活字から離れたいと思う。だから，学生の分際で難解な原論のたぐいを持ち歩いていたり，ろくに辞書もひかないで横文字を読む連中を見ると，羨望を通り越して非常な怒りをおぼえる。こんなことが許されていいのか。先日も電車に乗っていたら，隣にすわっていた若い女性が，私には見当もつかない横書きの本をひろげ始めた。あまりにも強い劣等感にとらわれたので，漫画雑誌を見ている大学生の方へ逃げ出した。ところが，その漫画もまた私の理解を越えるしろものだった。以後，私は電車のなかでは居眠りをすることにきめている。

どうしてむつかしい本が大量に売れるのか私には見当がつかない。はじめから平易なことばを使えば，わざわざ解説書など作らなくてすみ，著者も読者も気楽でいいと思うが，それでは知的な日本民族が満足できないのだろうか。もっとも，やさしい書物ばかり発行していたら，教師や評論家は飯の食い上げとなり，出版業は不況におちいって失業者が急増する。せっかく大学へはいったのに，中学生と同じ本を買うのではいかにも格好が悪い。やはり学問・文化とは難解でなければ世の中はうまく動かないのだろう。それは私にとってまことに辛い仕組みだが，同時に私を食わせてもくれるわけだ。そんな人間にさえも興味のもてる本がここにある。読書を趣味にもつ学生諸君なら，あっというまに読みおえて，著者の意図を十分に理解できると信じて疑わない。

（文学部助教授　太田勇）

広瀬　秀雄著

年・月・日の天文学—自然の文化誌—

（中央公論社　昭和48年）440.4：HH

わたくしたちはだれもが時間の枠組のなかで生活している。過ぎ去った年月をかぞえ，明日の出来事に心をかまえるのが社会人の習性といってみても，その大切な時間の概念が，これほどまで見事に人間の社会に定着するまでの経過となると，いささか説明に窮するのである。年月の基本は天文学の厳正な科学的事象にあるといっていても，なぜ閏年や閏月があったり，十二進法があったり，太平洋のまんなかで日附が変る必然性があるのか，時間に飼いならされた現代人には満足な回答は期待できない。

この著書は，ながらく東京天文台長をされていた広瀬秀雄氏が，天文学上の専門知識を底辺にお

いて，人間社会の歴史に映じたこの時間の考え方を，文化の香りをこめて随想にまとめられた楽しい本である。富士山を真東において，彼岸には富士の頂上から日の出が見えるように身延山に寺を開いた日蓮上人の天文知識，ポルトガル人とスペイン人が地球の東西にわかれて新大陸の発見をきそったあげくに，太平洋で日付がくい違い，記録の差がそのまま両国の勢力圏を歴史にえがきだした話などが興味ぶかく読まれる。なかでも，江戸時代の昼夜の時間が完全に日の出，日没まかせて，季節によって長短があり，それに鐘つきおやじの誤差が加算されたこと等文明開化の波によって，混乱した時の数え方のなかに，いろいろと人間臭さがみられる挿話には，天文学が，根底では人間社会の機構と無縁であり得ない事実があきらかにされている。最近の比較文化論や文化人類学の成果をまつまでもなく，各国，各地方で生活の軸となってきた暦法や，時間のきざみ方は，その地方の文化のリズムを完全に支配している。近代の世界観は，世界時の採用によって，物理的には連続した時間の網で地球をおおったが，生活に浸透した時の観念は，無数の国境を残したままである。歴史や文学の知識を織り込んださわやかなエッセイであるが，その裏には深い文明批評の精神がかくされているのがこの本である。

（工学部助教授　太田　邦夫）

～～～～～～～～～～～～～～～

本学図書館史の一断面

—いわゆる「生野裁判」にかかわって—

経済学部教授　重　富　健　一

本学に就任して，かれこれ12年になる。この間，本学図書館の運営にまったく無関係，無関心であったわけではないが，いわゆる生野裁判に深くかかわり，昨年来図書館運営委員に任命され，このところあらためて，図書館のあり方や図書館員の役割について考えさせられている。

いま仮りに，大学の図書館という機関は，基本的には教学権に属するものか，それとも法人の経営権に属するものかという質問が出されたとしよう。一見，いささか退屈で，素朴な問題提起のようにみえる。しかし，立入って検討してみると，じつはきわめて複雑かつ重大な問題なのだ。図書館のかわりに学部教授会や付置研究所をもってくれば，ことは自明である。それらは規程上も，慣習的にも，教学権の重要な一構成部分とされてきた。そこに，経営権がやたらと介入することは許されない。

ところが，こと本学の図書館に関する限りでは，さほどに単純明快ではない。なるほど，現行規程の上では，館長は本学の専任教授の中から学長の推薦にもとづいて，理事長が任命することになっている。図書館運営委員会は図書館の予算，収書その他の事項について重要な権限をもたされている。しかし，課長以下の職員人事は，生野問題にみる限り，全面的に経営権に属している。館長や図書館運営委員会は，事実上無視されている。このような図書館という機関は，教員の人事権をもたないか，またはいちじるしく制約された教授会と同じようなものではなかろうか。そのような教授会が，その自治や学問研究の自由をいうことは，およそナンセンスであると同様，図書館もまた，大学の心臓としての，教学のシンボルとしてのその存在と機能，地位と役割を，ほとんど自から投げ棄てたにも等しいことになりはしないだろうか。と，門外漢の私がこんな口はばったいことをいうのは，最近ある必要にもとづいて，本学の戦後図書館史をいくらか調べてみて，いろいろ思いあたることがあったからである。一部にはご承知のとおり，現行の図書館関係規程は，昭和44年にほぼその全容を整えたものである。その改訂，補充の一面の必要と意義は，私もわかるし，認めるにやぶさかではない。しかし，それまでの関係規程の精神に比べて，一点だけ重大な後退があるように思えてならない。その一点はいわば，角を矯めて牛を殺すにも等しいようなものではなかったろうか。ほかでもない。図書館の大学における位置が，従来の教学系列基調から，大きく法人系列基調に傾斜したこと，それにつれて図書館職員の職制，分掌上の地位，身分など，総じて人事も経営権下に一面的に組みこまれたように思えてならない。

大学における図書館の真に民主的で，自主的なあり方，その直接のもっとも重要な担い手である図書館職員の専門的役割や民主的人事について，一大学人として，あらためて考えさせられていることがらの一半を書きとめた次第である。

（図書館運営委員）

親鸞生誕八百年に寄せて

今年は，親鸞が生まれてちょうど八百年になる。これを記念する諸行事，諸事業が，真宗教団はもちろんのこと，それ以外にも数多くもたれている。これは，親鸞が信仰の世界とは別に広く，深く日本人の思想にかかわりをもちつづけている証拠であろう。ここ数年，親鸞自身の著作の復刻，そして親鸞に関する著述が目立って増加している。これも「親鸞は年の歴史をつき抜けた人であり，現在の人であり，また新しい追慕と思考の始まる明日への人」(丹羽文雄)であるからであろう。そこで，この機会に，親鸞の簡単な説明と当館に所蔵する親鸞関係資料（単行本）を紹介させていただきます。　　(工学部分館　米山大恵)

親鸞（1173—1262）

シンラン。浄土真宗の宗祖。民衆教化史上重要な地位をしめている。比叡山において念仏を修する堂僧をつとめ，1201（建仁1）年29才のとき，法然（源空）の門にはいって他力信仰へと回心し，1207（建永2）年35才のとき，師法然の法難に連坐して越後国府に流され，浄土的個性を深め，1211（建暦1）年39才のとき赦免された。1214（建保2）年42才のとき妻子とともに常陸に移り，この地の農民庶民下級の武士に布教，関東に約20年とどまっていたが，64，65才のころ京都に帰り，90才で死んだ。その間文書や著作によって伝道をおこなった。彼は法然の思想をうけつぎ，さらにこれを信仰中心の絶対他力の宗教に展開したのであり，従来の教・行・証の体系に教・行・信・証と信を入れ，しかもこの信をこそ中心となしている。この信中心の思想のうえにたって肉食妻帯の非僧非俗の生活を断行し，現実生活そのもののうちに宗教を実現しようとした。ここに当時における彼の在家仏教の特殊性がある。なお彼は人間の罪悪観に徹し自己を'愚禿'な人間であると観じ'弟子一人ももたず'（歎異妙）といい同朋同行の立場から無知文盲の民衆をこそ教化しようとした。また形式を去り，信仰の内実に徹し，無教会主義をとったところに鎌倉時代における彼の宗教改革的な性格がある。　　(唐沢富太郎)

平凡社「教育学事典」より

当館に所蔵する親鸞に関する単行本

日本の思想3　親鸞　筑摩書房　1969　121.08：N—6：1—3

日本思想大系11　親鸞　岩波書店　1971　121.08：N—7：1—11

仏教大系8～10　親鸞教行信証　仏教大系刊行会　大正7

国文東方仏教叢書　親鸞歎異抄　国文東方仏教叢書刊行会　大正15

金子大栄　親鸞教の研究　第一書房　昭和18　188.7：KT

小野正康　親鸞教学の日本学的研究　山喜房仏書林　昭和42　188.7：ON

清水梁山　日蓮より観たる親鸞　丙午出版社　大正12　188.7：SR

寺田弥吉　親鸞哲学の真髄　太陽出版　昭和47　188.7：TY—2

服部之総　親鸞ノート(上下)　福村出版　1967　188.71：HS

笠原一男　親鸞研究ノート　図書新聞社　1965　188.71：KK

前田慧雲　親鸞宗の教義及形体　光融館　大正11　188.71：ME

親鸞　のべがき教行信証　東洋大学出版部　188.71：S

親鸞　親鸞聖人全集　親鸞聖人全集刊行会　188.71：S：2

親鸞　顕浄土真実証文類　188.71：S：3

親鸞　歎異抄　真宗大谷派宗務所　昭和36　188.71：S：4

親鸞　教行信証　岩波(文庫)　昭和33　188.71：S：5

新鸞　歎異抄　岩波(文庫)　昭和45　188.71：S：6

親鸞　浄土文類聚鈔　188.71：S：8

親鸞聖人俗姓系図　188.72

石田瑞麿　親鸞とその妻の手紙　春秋社　昭和43　188.72：IM

金子大栄　親鸞聖人に映ぜる聖徳太子　目黒書店　昭和18　188.72：KD

笠原一男　親鸞と東国農民　山川出版社　昭和38　188.72：KK：3

蒲原霊英　親鸞の内室恵尼物語　蒲原浄光寺　昭

和45　188.72：KR

木村善之　愚禿親鸞　森江書店　昭和8　188.72：KY

宮崎円遵　親鸞とその弟子　永田文昌堂　昭和33　188.72：ME

松尾邦之助　親鸞とサルトル　実業之世界　昭和41　188.72：MK

村上専精　親鸞の開宗　丙午出版社　大正11　188.72：MS

真宗連合学会　親鸞聖人の教学と伝記　百華苑　昭和36　188.72：S

舜恕(編)　親鸞聖人絵詞伝　丁子屋九郎右衛門　享和1　188.72：S—3

光玄　親鸞聖人正明伝　富士屋長兵衛　享保18　188.72：S—3：3

高楠順次郎　見真大師　大雄閣　昭和6　188.72：TJ

二葉憲香　親鸞の研究　百華苑　昭和37　188.72：FK

親鸞　信仰五部書　無我山書房　明治42　188.74：S

山中峯太郎　親鸞と更生　警醒社　大正11　188.74：YM

大谷光端　見真大師　大乗社　大正12　188.81：S：7

日本歴史学会人物叢書65　親鸞　吉川弘文館　昭和36　281.08：N：1—65

日本古典文学大系82　親鸞　岩波書店　昭和33　918：N：1—82

日本の名著6　親鸞　中央公論社　918：N—5：1ロ—6

山本仏骨　親鸞人生論　雄渾社　(発注中)

石田瑞麿　親鸞とその弟子　毎日新聞社　1972　(〃)

金子大栄　親鸞の世界(正続)　徳間書店　1972　(〃)

丹羽文雄　親鸞紀行　平凡社　1972　(発注中)

本多顕彰　歎異抄入門　光文社　1972　(〃)

唐沢富太郎　親鸞の世界　法蔵館　1971　(〃)

松野純孝　親鸞<日本人の行動と思想2>　評論社　1971　(〃)

石田慶和　信楽の論理—現代と親鸞の思想—　法蔵館　1971　(〃)

参考図書の解題

—社会科学全般に関するものその1—

① 社会科学大事典 全20巻 鹿島研究所出版会

社会科学のあらゆる分野における最新の成果を包括的に提示することを目的として編集された事典である。各分野の多くの専門家の緊密な協力により，個別分野の専門事典からは得がたい，各専門分野間の総合的な研究成果が我々の前にさし示されている。

全20巻のうち最終の第20巻は索引にあてられている。本索引は，和文事項索引・欧文事項索引・和文人名索引・欧文人名索引の種類で構成され，人名索引は，神話・伝説上の人物など非実在の人名，及びブルバキ，ビートルズなどのようなグループ名をも含んでいる。　(303：S—7)

② London bibliograph of the social sciences. 13冊

社会科学の分野における最も大規模な主題書誌で，参考調査及び研究調査上重要なものである。

収録範囲において，又，図書，パンフレット，記録等が多国語に及んでいる点において国際的である。

主題毎にアルファベット順に整理されており，それらの主題から，短いが，しかし適切な情報(即ち著者・書名・頁・年次・所在)及び著作に書誌が含まれているかどうかについての情報を検索できるように配慮されている。

著者索引は4，5，6巻に含まれている。

(303.1：L)

③ 社会科学年表　第1巻　同文館

社会科学・社会思想史上重要な著作，即ち政治学，法律学，経済学，社会学，歴史学，教育学，哲学，文学及び社会思想にいちじるしい影響を与えた自然科学などの諸著作を文献年表の形式にまとめた年表書誌であり，同時に一つの社会科学史を構成している点に特色がある。第1巻は1401年—1750年にわたっている。　(303：YH—2)

投書箱から

1．学生希望の図書館資料購入について

本学図書館では，図書館資料の購入を，学生の希望アンケートなどでやらないのでしょうか。購入する資料の選定は，すべて大学あるいは図書館でやるのですか。（史学科1年生）

（係から） とくにアンケートなどで学生諸君の購入希望を集約してはおりませんが，カウンターに申出られた図書はほとんど購入しているのが現状です。自分で購入不可能なもの，この図書館に備付けておいてほしいものなどについては，遠慮なくカウンターの係までお申出下さい。所定の手続きを経て，出来るだけ早急に購入するよう努力しています。

この機会に，本学図書館における資料入手の過程を説明しておきましょう。

まず第1は各学部学科の先生方が，配分された予算の枠内で，その学部学科の教育・研究に必要なものとして選択購入される資料があります。これはその大部分が専門書です。

第2は選択委員会で選択購入されるものです。これは慣例によっていくつかに分れますが，ここで購入されるものはおおよそつぎのような資料です。①学生諸君の教養上必要なもの，②図書館として備え付けなければ，その機能が果せないようなもの，例えば辞書，事典，年鑑，索引，統計書など，③この図書館の蔵書構成上，その特徴をさらに発展させるために必要なものなどです。これらは選択委員の先生方やわれわれ図書館の職員が協議して，選択購入していくものです。学生諸君の希望も，手続き的にはこの選択委員会の議を経なければならないことになっていますが，ここ数年来学生諸君の希望する資料は，そのまま購入してよろしいということになっています。もちろんこれは希望資料の申出が比較的少ないためで，今後多くなってくれば，なんらかの購入基準を設けなければならなくなるでしょう。昭和47年度における学生諸君の希望で購入した資料の点数と金額は308点，82万です。

いずれにしても限られた予算内での資料集収ですから，われわれはできるだけ広く，資料に関する情報を得て，上記の目的にかなったよりよい資料を購入し，利用者の皆さんに提供できるよう努力しているわけです。学生諸君の購入希望の意志表示も，この重要な一環をなすものと考えます。ご協力を期待しています。

2．特別コーナーの設置について

本学出身者が著者となっている本を集めてコーナーを作ってほしい。例えば坂口安吾コーナーなど。

（係から） はっきり申し上げて，現在のわれわれの能力では，これを常設することは不可能です。と申しますのは，当館では所蔵資料を主題別に分類・整理・保管しています。したがって資料の運用（検索・貸出しなど）も，この原則にもとづいておこなわれていますので，特別なコーナーを設置しますと，資料の保管，運用に例外をつくることになって，当館所蔵の資料全体の管理，運営に種々の支障を来すおそれがあるからです。

したがってこれに変る方法で，ご要望に応えるよう検討してみましょう。例えばこのほど設置した展示コーナーを利用して，坂口安吾の命日など中心に一定期間，坂口安吾の著作などを展示するといった方法です。先日本学の創立者井上円了先生の著作遺品を約二週間，命日に因んで展示いたしました。

また時間はかかるでしょうが，本学出身者の主要著作の冊子目録を作成することなども研究してみたいと思います。

3．傘入れの使用について

指定された傘入れを使用したら盗まれました。今回で2本目です。1日もはやくカギをとりつけてください。

（係から） 被害者の方には非常にお気の毒ですが，この件についてはわれわれもお手上げの状態で，現在館内への傘の持込みを許可しています。ピロティーの傘入れは600本を収納できますが，現在カギが全部持ち去られ使用不可能になっています。どうもこの収納ボックスを独占するためにカギを持ち帰り，そのうちにカギを紛失するといったかたちで，現状に至ったものと思われます。事実この傘入れが，傘だけでなく他の物品を入れて，ロッカー代りに使用されていたことがかなりありました。

再三にわたり掲示を出して注意をうながしたのですが効果なく，各閲覧室に仮の傘入れを設置して，いま根本的な検討をおこなっています。その一つにビニールの袋を用意して，これに入れて閲覧席まで持込んでもらう案があります。年間どのくらいの数が必要か，その管理方法も併せて検討し，担当課と話し合いに入りたいと思っています。いずれにしても夏季休暇までには，投書者のような苦情が解消する対策をたてるよう努力しています。しばらく不便をかけますが，この事態にいたった経過を了承の上，お待ち願います。

夏期休暇中の図書館利用について

開　　館

（土）（日）を除いて，開館する予定です。開館時間は午前10時～午後7時30分まで。但し7月19日(木)～21日(土)は都合によりカウンター業務は停止します。

閉　　館

7月23日(月)～28日(土)，私立大学図書館総大会が，本学図書館で開催されるためその準備及び会場の都合で閉館となります。（詳しくは掲示をごらん下さい）

図書の貸出

〔冊数—含指定書—〕

一般学生3冊，卒論準備の学生5冊

〔期　間〕

①7/ 9(月)～8/ 3(金)貸出し　9/17(月)返却
②8/ 6(月)～8/17(金)　〃　9/18(火)　〃
③8/20(月)～8/31(金)　〃　9/19(水)　〃
④7/ 3(月)～9/14(金)　〃　9/20(木)　〃

夏期貸出しの受付けは7/9（月）から。したがって6/15(金)～7/7(土)貸出しの卒論作成者及び一般学生の前期貸出しの最終返却日は7/14（土）になります。

〔未製本雑誌〕

例年通り製本準備の為，7/2（月）より貸出し停止とし，7/7（土）を最終返却日とする。

工　学　部

前述の他に，下記の期間も閉館します。

7/25(水)～7/28(土)　8/13(月)～8/25(金)

日　　誌（3月～6月）

3月23日　第一回館内研修講演会（仮称）
平野威馬雄先生「南方熊楠」について

4月1日　新入職員で4人が図書館勤務となる。
森健一・波立智津子・飯島禎子(白山)・伊藤美佐代(分館)

5日～10日　昭和48年度新入生教育，図書館利用に関するオリニンテーション

20日　私大図書館協会，役員会（於慶応大学研究教育情報センター）

24日　図書館合同委員会，昭和48年度図書予算について審議
小田原市役所三浦氏外8名，見学のために来館

28日　私大図書館協会「書誌学分科会」

5月11日　図書館関係会計監査

16日　明治学院大学図書館，館長外1名見学のため来館
分館図書運営委員会，47年度報告，48年度予算承認

17日　同志社女子大学図書館，職員の方見学のため来館
日本橋東急で古書店（即売会）
「思想と文学」（本学刊行雑誌，昭和11年11月～昭和15年12月20日発行　1—6巻通刊1—15）を発見購入

18日　私大図書館協会，研究部幹事会（於拓殖大学図書館，梅沢課長補佐出席）

26日　私大図書館協会「書誌学分科会」

6月1日～16日　本学創立者井上円了先生の命日（6月6日）に因み，先生の著作，遺品を展示（於2階展示コーナー）

5日　青山学院大学図書館，館長外5名見学のため来館

8日　第2回館内研修講演会，天野敬太郎先生「所蔵目録の意義について」

編　集　後　記

今号から編集委員が交代し、小島、藤野、江下、鈴木が担当します。

みんな初めてここと で、思わぬところで苦労しました。よろしくお願いします。

東洋大学図書館ニュース　KO∑MO∑　Vol. 8, No. 1（通巻22号）1973年7月5日発行　編集：図書館ニュース編集委員会，発行人：大島建彦，発行所：東洋大学図書館　東京都文京区白山5丁目28番20号　Tel（945）7314